

〈解答〉

- ① 1 ちんもく                    2 あみ                    3 こんきよ                    4 管                    5 延期                    6 痛
- ② 1 ウ                    2 おおきに                    3 馬上
- 4 〔例〕戦場で戦うことによつて天下を治めることはできない (24字)
- 5 イ

配点 ①、②は各1点、他は各2点 15点満点

〈解説〉

- ① 「沈黙」は「黙り込んで口をきかないこと」以外に、「物音が無く静かなこと」や「活動せずにじっとしていること」を表す熟語で、「沈黙を守る」「沈黙して語らない」などのように用いられる。
- ② 「網」の音読みは「モウ」で、「網羅」「監視網」「一網打尽」などの熟語として用いられる。
- ③ 「根拠」とは「物事が存在するための理由」のこと。また「本拠地」という意味もある。
- ④ 「管」の音読みは「カン」で、「管理」「水道管」などの熟語として用いられる。また「管」と「菅」は「カン」という音読みを持つ上に形が似ているので、書き間違わないよう気をつける。
- ⑤ 「延期」は「期日や期限を延ばすこと」という意味で、類義語の「順延」との違いは「順番通りに延ばすかどうか」にある。
- ⑥ 「痛」の音読みは「ツウ」で、「頭痛」「痛快」などの熟語がある。
- ② 「不尽言」は、江戸時代中期における儒学者・医師である堀景山ほりけいざんによつて書かれた随筆。
- 1 1行目『高祖の前にて聖人の書を引き、政事を論ぜし（Ⅱ高祖の前で聖人の書物を用しながら、政治について論じていた）』主体は「陸賈」である。また、2～3行目『古の聖人の天下を取られし（Ⅱ古代の聖人が（平和的な方法で）天下をお取りになった）』の主体は「古の聖人」である。
- 2 古文では、語頭以外の「はひふへほ」は、それぞれ「わいうえお」と読むので、「おほきに」の「ほ」を「お」と読む。
- 3 「陛下」とは高祖のことである。高祖が3行目で『馬上にて天下を取りたれば』と言っていることから考えるとよい。
- 4 高祖は5～6行目『陛下は馬上にて天下を得られしと思し召せども、なにとして

馬上にて天下は治まるまじきぞ（Ⅱどうしても戦場で戦うことによって天下を治めることはできません）」という陸賈の言葉に反論できず、「閉口せられて（Ⅱ閉口させられて）」しまったことをまとめる。

5 高祖は9〜11行目『「新語」と云ふ書を作らせられしに、一篇出でて差し上ぐるたびに、その意味を聞かれては、一々に「尤もなり」と感服ありし（Ⅱ『新語』という書物を作らせなされたのだが、一章節が出来上がって献上するごとに、その意味をお尋ねになつては、いちいち「もつともだ」と感服なされた）」とあるので、イが正解である。ちなみに、ア「高祖に代わつて天下を治めた」、ウ「高祖の頭のよさに驚いた」、エ「自分の意見を参考にした」、オ「陸賈」の部分が、それぞれ適当ではない。

〔大意〕

陸賈という者が、（漢の皇帝である）高祖の前で聖人の書物を引用しながら、政治について論じていたところ、元来、儒者嫌いの高祖が、「私は古代の聖人が（平和的な方法で）天下をお取りになったのとは異なり、戦場で戦つて天下をとつたので、聖人の言葉や考え方は必要ない」と言つて、陸賈をひどく非難して叱りつけたので、陸賈は、「陛下は戦場で戦つて天下をおとりになつたとお思いでしょうが、どうやっても戦場で戦うことによって天下を治めることはできません」と言つたので、陸賈の答えに閉口させられて、それ以降は陸賈を信頼し、すぐに陸賈に命令して、昔の聖人や賢人の言葉を引用し、天下を治めるための方法論を解説した『新語』という書物を作らせなされたのだが、（陸賈が、その『新語』の）一章節が出来上がつて献上するごとに、その意味をお尋ねになつては、いちいち「もつともだ」と感服なされたということである。